

小児科

子どもの多様な症例に手厚い治療 大人になっても欠かせぬフォロー

子どもの病気は多様なだけに適切な対応が求められます。阪大病院小児科はあらゆる病気に最適な治療ができるようにそれぞれの病気の専門家を養成し、臨床だけでなく新たな治療法を開発するなど研究面にも力を入れています。子どもの病気は社会の状況ともリンクしており、現在では、発達障害など精神、心理面での診療にも重点をおいています。

小児科が診る病気は

人と同じ病気であつて



子どもが安らげるようにイラストが描かれた病室

もその対応が違います。体も精神も発達、成長段階にあるということことです。現在の病気を治すことも大切ですが、その子どもの10年、20年後のことを考えて治療をしていかなければなりません。

特に腎臓病などの難治性の慢性疾患や子どもの特有の病気で他の診療科では対応の難しい病気は子どものときだけでなく大人になつてからも小児科がフォローすることになり

ます。小児白血病や脳腫瘍などの小児がんでは病気を治すだけでなく、保護者の精神的なサポートも必要となつてきます。

社会の変化に伴つて子どもの病気も変化してきます。メタボリックシンドロームの子どものも現れています。また、親の偏食や栄養バランスの偏りから「くる病」など昔の病気とも思われていた病気もあります。

教育の現場でも問題になってきている多動やLD（学習障害）などの発達障害や眠れない睡眠障害も時代の病気といつてもいいかもしれ

れません。小児科では「親と子の発達相談」外来や睡眠外来を設け、医師だけでなく臨床心理士などとともに子どもだけでなく保護者の方のカウンセリングも行っています。

入院される子どものアメンティも考慮し、小児病棟は小児医療センターとし、快適性と安全性を確保して、昨年生まれかわりました。

常には高くなっており、輸血後肝炎のリスクもほとんどなくなりました。しかし、血液型は合っているにもかかわらず、輸血の血液によって輸血後のじんましんや発熱など副作用が起こることはあります。

輸血部では患者さんに対するだけ副作用が起これば、安心して輸血を受けていただける自己血輸血を勧めたいです。自己血輸血は手術前に患者さんから血液を採取して保存しておき、必要ときに使用する方法です。

1回に採血できる量は献血と同じ400ccです。血液センターから購入した赤血球製剤の有効期間は採血後21日間ですが、自己血ですと35日間の保存ができますので、手術まで3回採血することができ、計1200ccの輸血用血液が確保できます。

輸血部

自己血輸血を推進 副作用なく安心で安全

阪大病院の輸血部では手術の際などの安全性を確保するために輸血の十分な量を確保し提供できるよう適切に管理しています。また、患者さんが安心して輸血を受けられるように自己血の輸血を積極的にを行っています。阪大病院で1年間に使用される赤血球製剤



副作用を起こさない自己血輸血

（輸血用製剤）は約1万7000単位（1単位は200cc）です。赤血球血液製剤の安全性は非

は手術の際などの安全性を確保するために輸血の十分な量を確保し提供できるよう適切に管理しています。また、患者さんが安心して輸血を受けられるように自己血の輸血を積極的にを行っています。阪大病院で1年間に使用される赤血球製剤

常には高くなっており、輸血後肝炎のリスクもほとんどなくなりました。しかし、血液型は合っているにもかかわらず、輸血の血液によって輸血後のじんましんや発熱など副作用が起こることはあります。

輸血部では患者さんに対するだけ副作用が起これば、安心して輸血を受けていただける自己血輸血を勧めたいです。自己血輸血は手術前に患者さんから血液を採取して保存しておき、必要ときに使用する方法です。

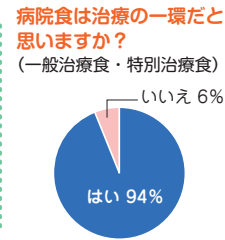
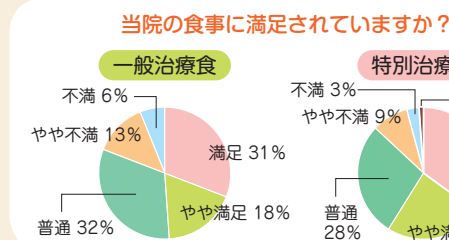
1回に採血できる量は献血と同じ400ccです。血液センターから購入した赤血球製剤の有効期間は採血後21日間ですが、自己血ですと35日間の保存ができますので、手術まで3回採血することができ、計1200ccの輸血用血液が確保できます。

常には高くなっており、輸血後肝炎のリスクもほとんどなくなりました。しかし、血液型は合っているにもかかわらず、輸血の血液によって輸血後のじんましんや発熱など副作用が起こることはあります。

皆様の笑顔求めて Vol.4

病院食は治療の一環！？

栄養
マネジメント部



識されています。その中の約7割の方が、退院後も自宅で病院の食事を参考にしようと思われています。献立（メニュー）、味付け、野菜の量を参考にしたいという意見がありました。特別治療食では、94%の方が治療の一環であると認識されていました。また、約9割の方が、退院後も病院の食事を参考にしようと思われています。食事療法の必要性を認識されていると感じています。今回の調査で阪大病院の食事は、治療・疾病回復を図るだけでなく、『家庭での食生活および食事療法の参考』という食育本来の目的を実行できていることを再認識することができました。

のは年齢には関係なく、貧血がなく比較的元気な患者さんです。例えば変形性膝関節症や子宮がんや前立腺がんなどの患者さんが対象になります。事前に患者

さんの状態をチェックして採血が可能かどうかを見極めます。自己血の採血はこれまで各診療科で行うことが多かったのですが、細菌感染など安全性の

面からできるだけ輸血部で行うようにしています。昨年はほぼ全例輸血部で採血しています。輸血の安全性確保と患者さんの安心のためにさらに増やしていきたいと考えています。

子どもの病気は多様なだけに適切な対応が求められます。阪大病院小児科はあらゆる病気に最適な治療ができるようにそれぞれの病気の専門家を養成し、臨床だけでなく新たな治療法を開発するなど研究面にも力を入れています。子どもの病気は社会の状況ともリンクしており、現在では、発達障害など精神、心理面での診療にも重点をおいています。

子どもたちの笑顔のために クリニクラウン

毎月第3水曜日の昼下がり、小児医療センターの廊下には軽やかな楽器の音色とともに、赤鼻をつけたクリニクラウンたちがやってきました。最初はキョトンとしていた子どもたちにも素敵な笑顔がはじけます。個室にいる子どもたちからも歓声があがります。



クリニクラウンは単なるクラウン（道化師）ではありません。あくまでも病気の子どもたち、特に入院生活を送っている子どもたちが主役で、遊びや会話を通して双方のコミュニケーションを育み、心地よく療養生活を送れるように手助けをするのです。子どもたち皆が体調万全とはいきませんが、訪問前には、医療スタッフと病状や心理状態を綿密に打ち合わせます。クリニクラウンの発祥の地はオランダです。日本で

は日本クリニクラウン協会がクリニクラウンを養成し、病院へ派遣しています。本院小児医療センターも数少ない派遣先の一つとして、昨年度より月1回の定期訪問をしていたいています。今後とも、子どもたちの笑顔のため、遊びとユーモアの提供をよろしくお願いいたします。

恒例の七夕コンサートが7月7日に開催されました。幕開けのジャグリングサークルの曲芸では、ボールなどを巧みに操る、軽やかなパフォーマンスに患者の皆さんは魅せられ、ボールを落としても温かい声援の拍手や笑い声も出て和やかな雰囲気でした。第2部はアカベラ2グループによるさわやかな歌声と、元気になる楽しい曲を披露していただき、入院生活に安らぎを与えていただきました。

院内学級の大運動会が6月19日に小児医療センターデイルームで行われました。スーパーマンキングとドラゴンベガサスのチーム対戦で、最後のバタールゴルフまで、ハラハラドキドキの大接戦でした。今年も病室にいる子どもたちとテレビ会議システムを使って、デイルームとベッドサイドをつないで競技を行いました。最終得点はベッドサイドの子どもたちの点数を加え、「ドラゴンベガサス」チームが優勝し、楽しい大運動会となりました。

阪大病院を見学してみませんか
阪大病院では、大学病院を広く市民の皆様にご覧いただくために、病院見学会を下記のとおり実施します。皆様が大学病院というものについて気付かない点、また、普段見ることのできない場所など、新しい発見に出会えるかもしれません。この機会に一度ご覧になってみませんか。お気軽にご参加ください。

- 対象者 一般市民（成人、個人）
- 実施日時 10月2日（金）14時～16時30分
- 募集人員 15人（先着順）
- 募集期限 9月4日（金）まで
- 申込方法 はがき、FAXまたは電子メールで氏名、性別、年齢、住所、電話番号を記入のうえ申し込み願います。申し込みいただいた方に、後日決定通知にてお知らせします。
- 送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15 大阪大学医学部附属病院 総務課広報評価係 FAX 06(6879)5019 E-mail: ibyousoumukouhyo@ns.jim.osaka-u.ac.jp
- お問い合わせは、同広報評価係 06(6879)5020・5021へ。